

第1章 高岡市の概要

1 自然的・地理的環境

(1) 高岡市の位置・面積

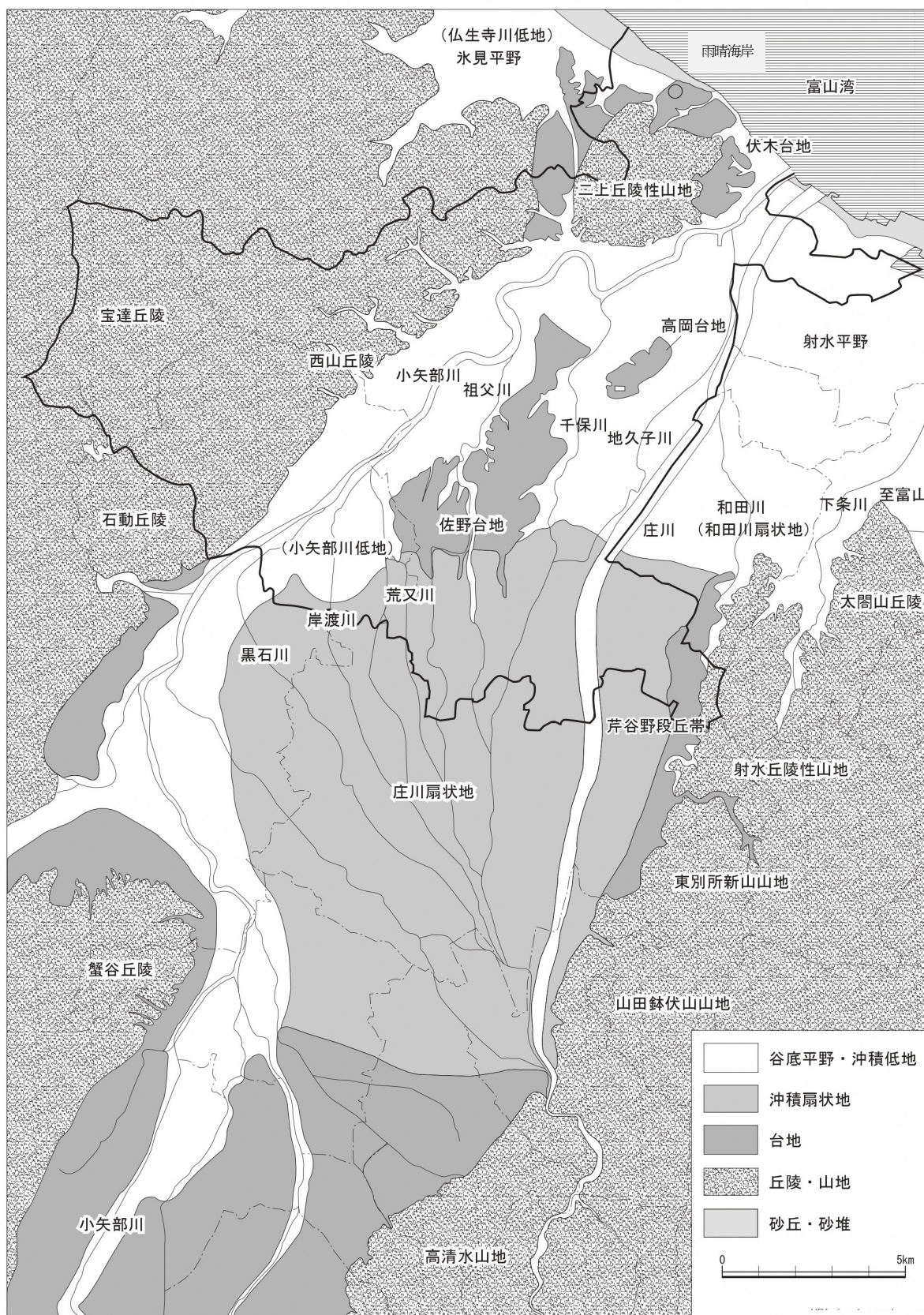
高岡市は、富山県の北西部に位置し、東西 24.5 km、南北 19.2 km に渡り総面積は、209.58 km² (20,958ha) である。北東は日本海に面し、東側には庄川と小矢部川によって形成された平野部が広がり、西側は二上山及びこれに連なる西山丘陵からなる山間部となっている。日本の渚百選に選ばれた雨晴海岸からは、海越しに 3,000m 級の立山連峰の大パノラマを見ることができ、平野部には良質な地下水を有する扇状地が広がるなど、深緑と清らかな水に包まれ、四季折々に変化する豊かな自然に恵まれている。



高岡市位置図

(2) 地形・地質

高岡市の平野部は、^{となみ}砺波平野と^{いみず}射水平野に跨っている。砺波平野は、市域東寄りを流れ度々氾濫を起こしてきた庄川の扇状地である。射水平野は、庄川と市域西寄りをゆるやかに流れる小矢部川の2つの河川

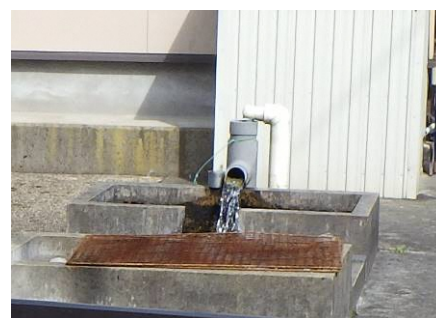


がつくった三角州や氾濫原^{はんらんげん}から成っている。庄川扇状地の扇端部にあたる市域南部の標高 20～25m あたりは、伏流水が泉となって地表面に湧き出る湧水帯^{ゆうすいたい}で、その北に広がる標高 10～20m の一帯は、井戸を掘ると水が噴き出す自噴井帯^{じふんせいたい}である。このため、市域内に湧水帯と自噴井帯が広がり、水に恵まれた地域となっている。

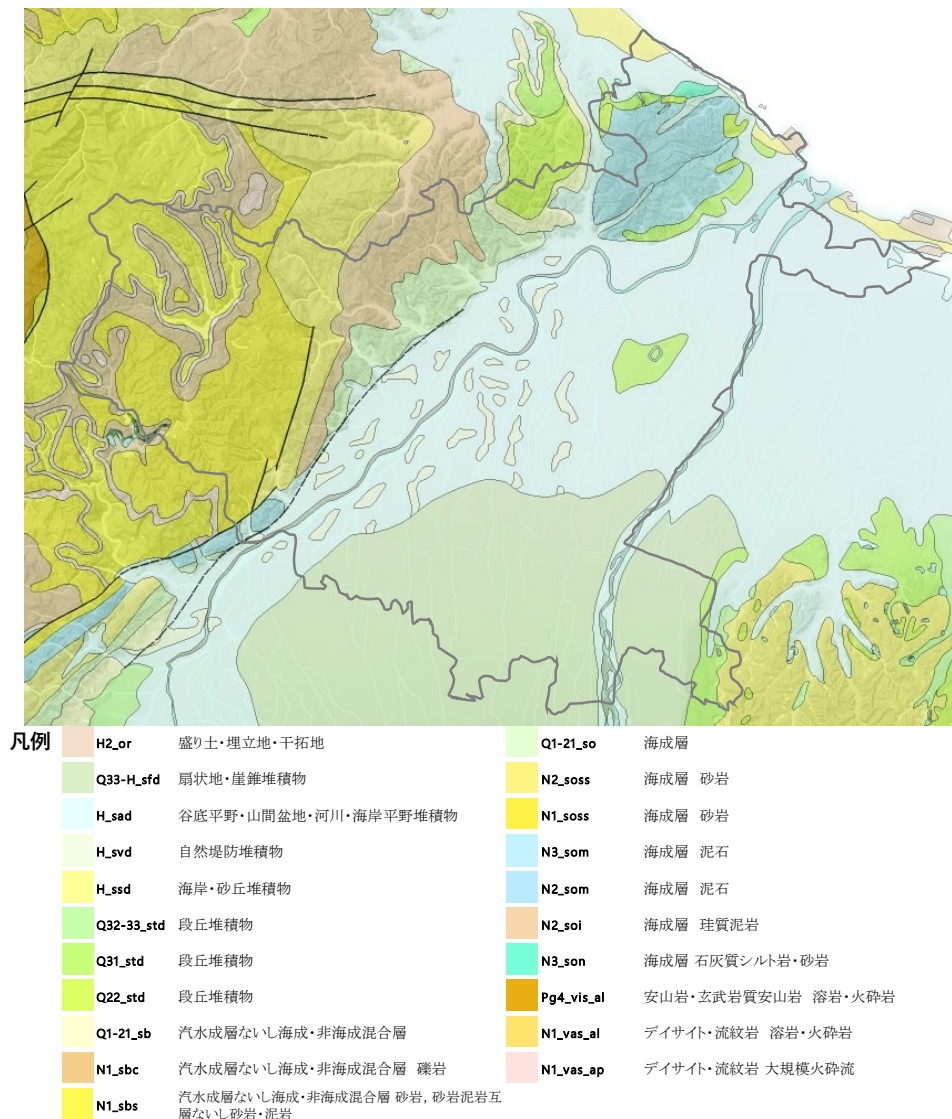
市域の平野部のほぼ中央に位置するのが、標高 10～20m の高岡台地、佐野台地である。それを囲むように地久子川・千保川・祖父川・荒又川・岸度川・黒石川といった小矢部川の支流が市内を縫^ぬっている。南東部は、射水丘陵に属し、この丘陵の西側には、和田川を挟んで、芹谷野・般若野^{はんぎやの}の細長い段丘が発達している。

一方、市域の西から北にかけて、石川県境まで続く宝達山系^{ほうだつさん}の西山丘陵と二上丘陵が連なっている。二上丘陵は、西側は断層によって急崖を形成しつつ一段低い西山丘陵に続き、北東は絶壁となって富山湾に落ち込み雨晴海岸の景観美を作り出しているなど、独立した山地の形になっている。また、主峰^{しゅほう}の二上山の標高は 273m に過ぎないが、周辺に高い峰がないため、実際よりもはるかに高く見える。二上山の山容やその優美さから遠く古代から神霊が宿る山として人々の信仰の対象となっている。

平野部の地質は、庄川扇状地においては砂礫を中心とする土砂からなり、その末端においては砂質系の細粒分が多い土質が分布する。氾濫原や三角州においては河川で流された砂礫の堆積物が多い。射水平野の海岸近くにおいては、シルト質細砂等の土質が分布し、市域の北端の氷見平野においては細砂や極細砂を中心に砂質系の土質とシルト質の土砂が分布する。二上丘陵・西山丘陵がある丘陵部の地質は、主に砂岩、泥岩や凝灰岩で形成される。



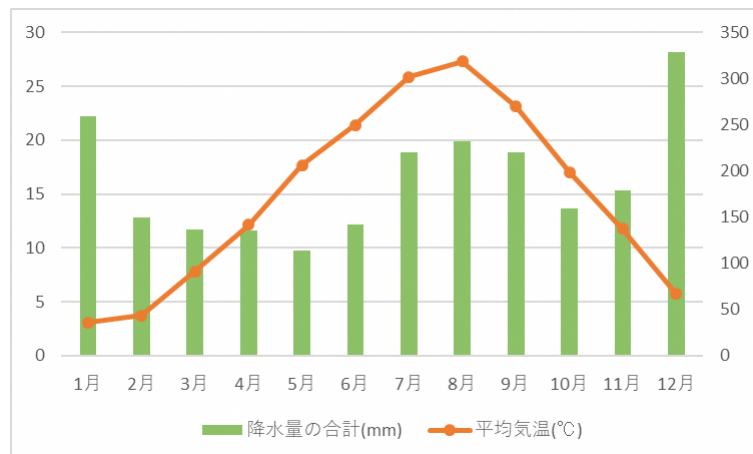
佐野台地上の湧水（住宅にも湧き出ている）



高岡市周辺の地質図【出典：産総研地質調査総合センター日本シームレス地質図 V2 加工】

(3) 気候

気候は日本海側気候に属する。北陸特有の曇天の日が多く、年間降水量は平均 2,281mm であり、年間平均湿度は 78.5% と高い。年間平均気温は 14.7℃ と比較的温暖であり、台風は少ない。夏期はフェーン現象により猛暑日となる日がある一方で、冬期には、暖流の対馬海流上で水蒸気を蓄えた北西の季節風が強く吹きつけるため、平野部で 50 cm の積雪を観測する年があるなど四季の変化がはっきりしている。



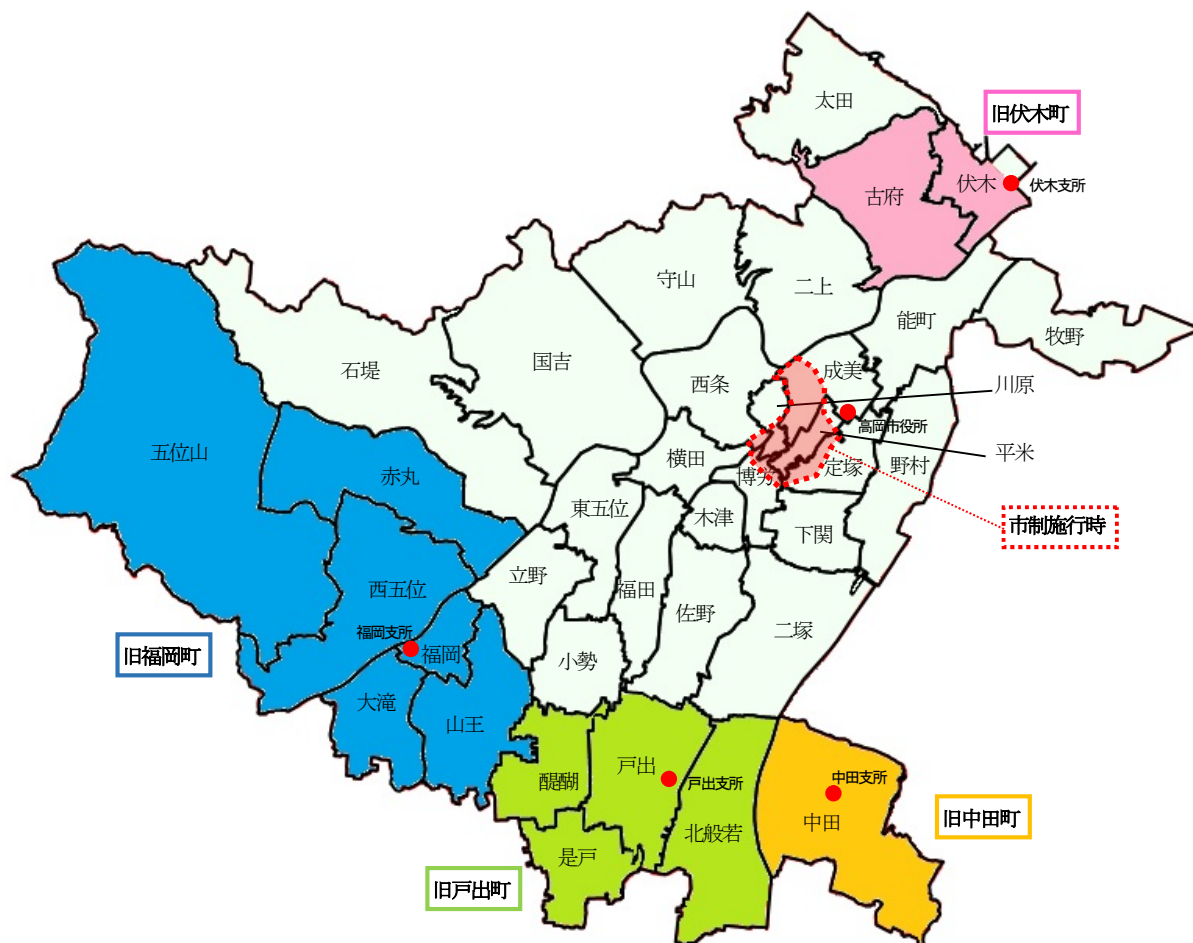
高岡市（伏木）の降水量及び気温の平年値（2014-2023）【資料：気象庁データを基に作成】

2 社会的状況

(1) 市の地域区分

高岡市は、明治22年(1889)の市制施行に伴い、市となった全国31都市の1つである旧高岡市が中心となっている。昭和41年(1966)には戸出町、中田町を編入した。平成17年(2005)11月1日に、旧高岡市と福岡町は合併し、現在の高岡市となった。

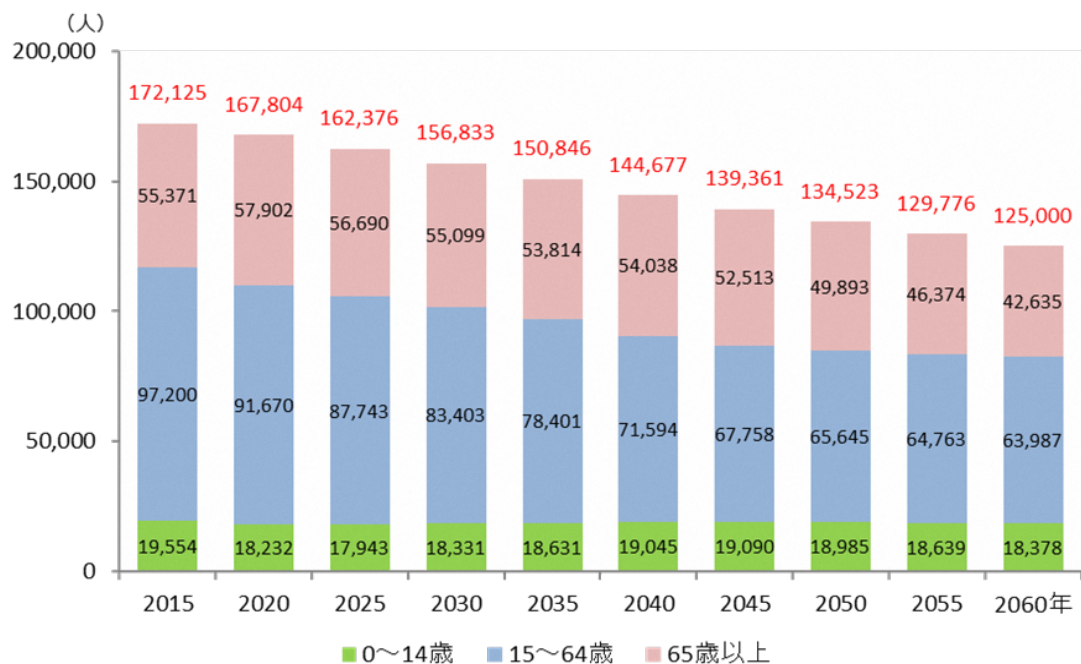
市制・町村制以前の旧村のほとんどは現在も地名に残されており、概ね合併前の村単位で36地域に分かれている。合併前に町であった伏木、戸出、中田、福岡には市役所の支所がある。



高岡市の地域区分

(2) 人口動態

高岡市の総人口は、昭和60年（1985）の188,006人をピークに減少傾向にあり、令和5年（2023）12月末の総人口は、164,053人となっている。年齢3区分別人口の推移では、昭和60年（1985）に対し令和2年（2020）は、15歳未満の年少人口が57.4%の減少、65歳以上の老年人口は2.3倍に増加、高齢化率は12.6%から34.6%（全国28.6%、富山県32.6%）に上昇しており、少子高齢化が進んでいる。このため、15歳から65歳未満の生産年齢人口が減少し、経済・産業活動の中心となる担い手が不足することで、経済活力の低下が懸念されている。また、人口減少・少子高齢化の進展は、地域の暮らしや文化を支えている地域コミュニティの維持を難しくさせていくことから、高岡市では、高岡市総合戦略「みらい・たかおか」を策定し、将来にわたって人口減少を克服し、地域の経済社会の活性化に向けて取り組んでいる。



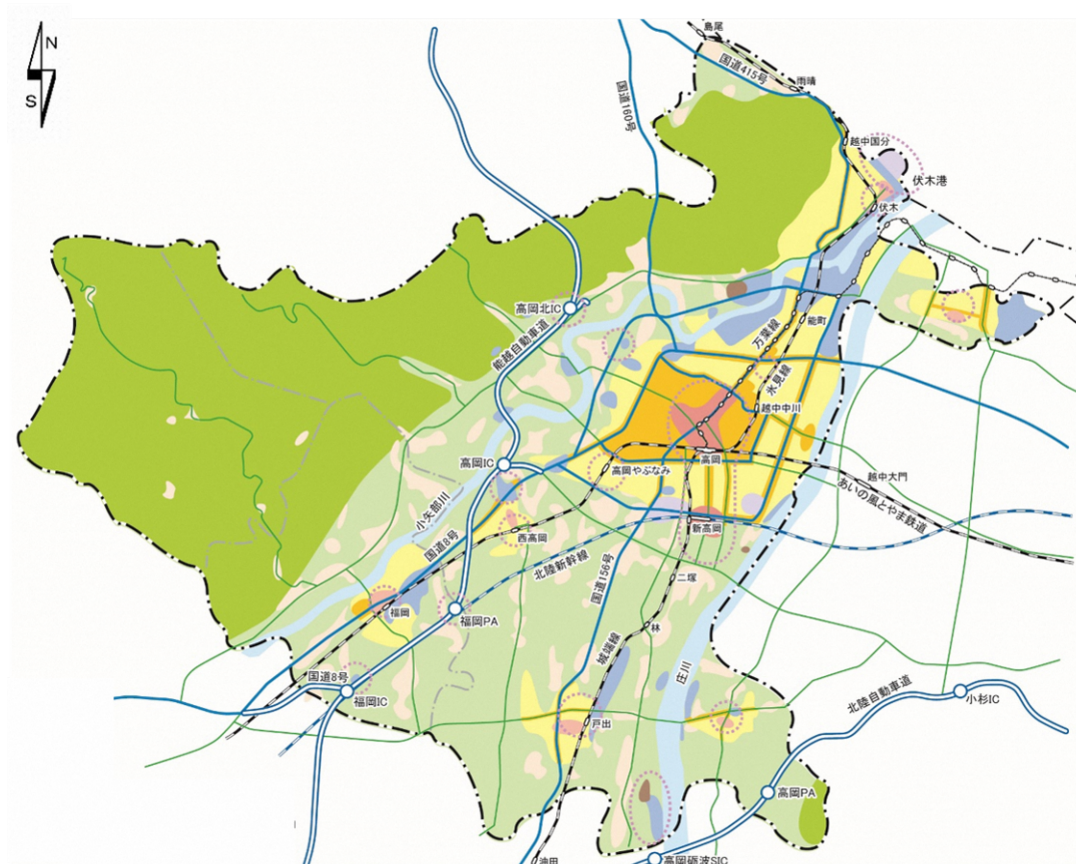
年齢3区分別の将来人口の推計【出典：高岡市総合計画第4次基本計画】

(3) 土地利用

高岡市の市域面積209.58km²のうち、森林が67.04km²、耕地が53.20km²、宅地が37.82km²、その他51.52km²となっている。二上山から西山丘陵、宝達丘陵にかけて市域の3分の1が森林であり、耕地・宅地の多くは、小矢部川・庄川流域に広がっている。

高岡台地上には城下町として始まった高岡町に起源をもつ中心市街地が広がっている。そして小矢部川と庄川の河口に位置する伏木と高岡台地の間には工業地区が広がる。市の南部には戸出、中田、福岡など合併前の町の中心であった市街地があり、その周辺には農業振興地区と田園集落地区が広がっている。

高岡市総合計画は、歴史的な町並みや歴史的建造物の周辺では、歴史的風致の維持向上に配慮した土地利用の誘導や農村景観の保全、二上山や西山丘陵などの自然美を有する地域の保全と活用に取り組むこととしている。



【凡例】	
一般住宅地区	ゆとりある低層住宅を中心とする地区
複合住宅地区	住宅を中心に商業・業務の立地も許容する地区
広域商業地区	市の中心的な商業地と高次都市機能が集積する地区
生活商業地区	商業施設と身近な生活サービス施設が集積する地区
工業地区	企業団地をはじめ工場等生産施設が集積する地区
流通業務地区	流通業務関連施設が集積する地区
産業支援地区	産業支援施設や研究開発施設が集積する地区
農業振興地区	優良農地を保全し農業の振興を図る地区
田園集落地区	市街化を抑制しながら良好な集落環境を保全する地区
自然環境保全地区	良好な自然環境の保全を図る地区
計画・開発促進地区	
道路区分	
	高規格幹線道路
	主要幹線道路（環状放射道路）
	その他主な幹線道路
行政区域	
都市計画区域	

土地利用概念図

(4) 産業

令和2年（2020）の産業別の就業者の割合は、第1次産業が約2%、第2次産業が約32%、第3次産業が約66%となっている。平成22年（2010）と令和2年（2020）を比較すると第1次産業の就業者が約15%、第2次産業の就業者が約7%減少している一方で第3次産業の就業者数はほぼ横ばいとなっている。

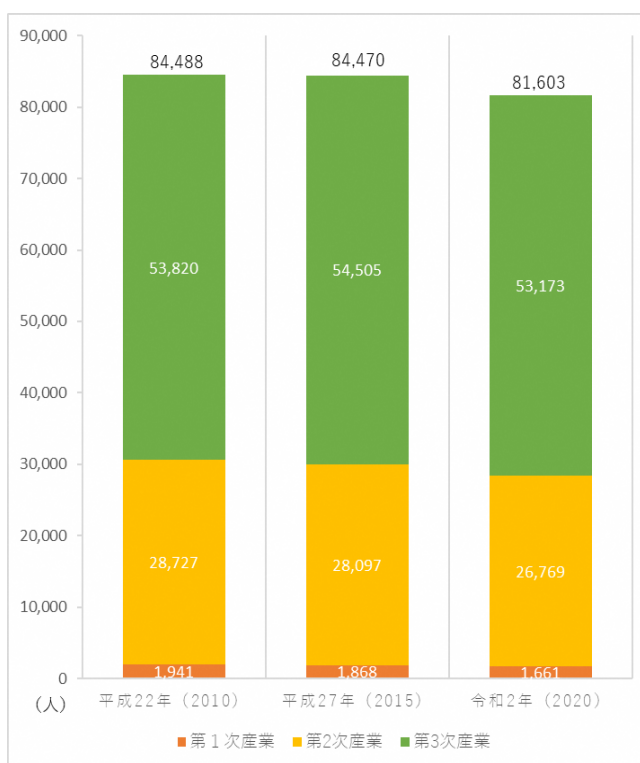
第1次産業の約92%が農業であり、農業就業者の約65%が65歳以上となっている。また、副業として農業をしている割合は全体の95%を占めている。農業産出額の70%以上が米であり、県内平均より高い。

第2次産業は、近世に由来する銅器・漆器・捺染などの伝統的な産業が盛んであったこともあって製造業が約76%を占めている。産業別の事業所数でみると、銅器を含む金属製品が多く、3分の1以上の割合となっている。伝統的な鋳物技術を基に、豊富な水資源と安価で安定した電力供給を背景として昭和初期から発展してきたアルミニウム産業は市を代表する産業となっている。

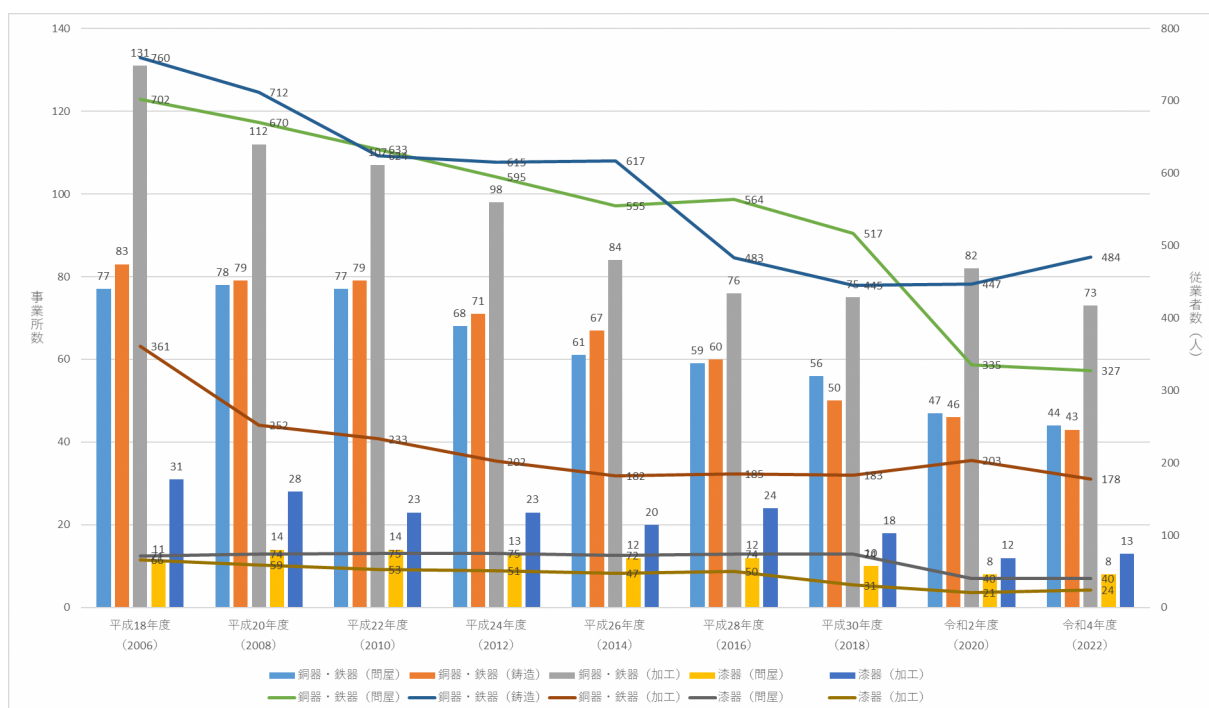
また高岡銅器、高岡漆器、越中福岡の菅笠は伝統的工芸品の指定を受けている。高岡銅器は、製造・加

工部門において工程別の分業体制が確立されているほか、従事者数が少ない規模が小さな事業所が多く、他の産地に比べて集積度が高い点が特徴である。近年は、錫製品や着色技術を生かした服飾、鍛造ホイールなど製造・加工業者が自ら商品を企画し、国内外に販路を開拓する動きがみられる。製造業の就業者数は減少してきているが、高岡銅器の加工業や漆器、菅笠など伝統産業では従業者の高齢化が特に進み、後継者の確保と育成が求められている。

第3次産業は、卸売業・小売業が25%、医療・福祉が約20%を占めている。卸売業・小売業は減少しているが、医療・福祉などが増加しており、第3次産業の就業者数は横ばいとなっている。



産業別就業者数【資料：国勢調査】



伝統産業（銅器・鉄器・漆器）の事業所数と従事者数【資料：高岡特産産業のうごき】

(5) 交通

東西方向に結ぶ北陸新幹線、北陸自動車道、南北方向に結ぶ東海北陸自動車道と能越自動車道による広域交通ネットワークが交差し、総合的拠点港である伏木富山港を有する日本海中央部の「^{おうぎ}^{かなめ}扇の要」に位置している。東京、大阪、名古屋の3大都市圏からの所要時間は、いずれも電車で約2時間30分とアクセスしやすくなっている。新高岡駅や毎年クルーズ船が寄港する伏木港は、国内外から多くの方が訪れる拠点となっている。

地域交通は、高岡駅を中心とした鉄軌道による交通軸が形成されている。東西はあいの風とやま鉄道、南部はJ R城端線、北部はJ R氷見線や路面電車である万葉線が運行し、高岡駅や新高岡駅を起点として路線バスが放射状に運行している。また、タクシーによって市内全域に交通サービスが提供されている。



高岡市内の公共交通ネットワーク図 出典：高岡市地域公共交通計画

(6) 観光

市内の観光地としては、国宝瑞龍寺や国宝勝興寺といった歴史を持つ社寺をはじめ、山町筋、金屋町や吉久などの伝統的建造物群、高岡城跡や銅造阿弥陀如来坐像（高岡大仏）など市内の指定等文化財のほか、万葉の時代からの景勝地である二上山や雨晴海岸が挙げられる。また、高岡御車山祭や伏木曳山祭などの祭礼行事や高岡万葉まつり（万葉集全二十巻朗唱の会）、福岡町つくりもんまつりといったイベントに市外からの観光客が訪れている。

近年は、「ものづくりのまち」として高岡銅器・高岡漆器・越中福岡の菅笠など伝統的工芸品の販売だけでなく、鋳物製作や銅器の着色、螺鈿細工など伝統産業を身近に体験できる工房や施設が市内に点在しており、重要な観光資源となっている。

令和元年（2019）に高岡市を含めた6市の行政と約80の企業・団体が連携して、観光づくり地域法人として（一社）富山県西部観光社水と匠が設立（令和3年（2021）に地域連携DMOの認定）している。同社では市内の瑞龍寺・国泰寺・勝興寺という宗派の違う3つの大寺院と伝統的なものづくりを結び付けた体験ツアー商品を造成するなど、旅行商品の開発などを通じた地域活性化に取り組んでいる。

(7) 文化財施設

市内には、文化財の保存・活用に関係する施設として高岡市立博物館や高岡市万葉歴史館、高岡御車山会館などがあるほか、武田家住宅など市が所有する指定等文化財を公開している。市所有以外では、菅野家住宅や佐伯家住宅において公開が行われている。市が所有する文化財施設については次のとおりである。

ア 高岡市美術館〔運営：（公財）高岡市民文化振興事業団（指定管理）〕

昭和26年（1951）に創設された旧美術館を前身とし、高岡の伝統工芸である金工や漆芸の作品を中核に幅広く美術・工芸の作品を収集・展示している。

イ 高岡市立博物館〔運営：（公財）高岡市民文化振興事業団（指定管理）〕

高岡の歴史・民俗・伝統産業に関する資料の収集保存、調査研究、展示、教育普及に関する活動を行っている。原始から近代までの通史、高岡銅器、高岡漆器などの伝統産業、獅子舞や高岡御車山などの祭礼、高岡市出身で業績を残した人たちを紹介する展示をしている。また、高岡城跡内にあり、城跡のガイドダンス機能を担っている。

ウ 高岡市福岡歴史民俗資料館〔運営：高岡市〕

越中福岡の菅笠をはじめとして福岡地域の埋蔵文化財や古文書、民俗資料を中心に歴史資料・民俗資料の保管・展示している。建物は菅笠商人として財を成した寿原氏の寄贈を受けたもので国の登録有形文化財となっている。

エ 高岡市万葉歴史館〔運営：（公財）高岡市民文化振興事業団（指定管理）〕

万葉集を中心テーマに据えた日本で初めての研究施設。万葉集と万葉の時代に関し、広く資料・文献・情報類の収集。調査・研究を行い、その成果を展示、出版している。

オ 高岡市鋳物資料館〔運営：金屋町自治会（指定管理）〕

高岡鋳物発祥の地である金屋町において400年にわたる鋳物産業の歴史資料、民俗資料を収集・展示している。指定管理者として地元の住民が管理運営している。

カ 高岡市高岡御車山会館〔運営：高岡市〕

高岡御車山祭で巡行する高岡御車山を通年展示する施設。400年以上の御車山の歴史の紹介や、祭の準備から祭礼当日を追体験できる映像などのほか、御車山に凝縮された「ものづくりのまち高岡」の工芸技術を紹介している。

キ 高岡市埋蔵文化財センター〔運営：高岡市〕

市内で出土した埋蔵文化財の保管・整理作業を行い、それらの展示を通じた高岡市の歴史を紹介している。また勾玉づくりや組みひもづくりなどの体験学習を行っている。

ク 武田家住宅〔運営：高岡市〕

武田家は武田信玄の弟^{しょうようけんのぶつな}道遥軒信綱の子孫と伝えられ、建物は18世紀末に建てられた豪農の住居でこの地方における江戸後期の農家建築の特色をよく残しているとして重要文化財に指定されている。平成元年（1989）に所有者から市に寄付され、武田家が所蔵していた資料とともに一般公開している。

ケ 高岡市伏木北前船資料館〔運営：伏木観光推進センター（指定管理）〕

廻船問屋であった旧秋元家住宅（市指定）を活用し、伏木と周辺の村々の歴史、古地図や引札、船主の生活道具など、北前船に関する資料を展示している。

コ 高岡市土蔵造りのまち資料館 [運営：株式会社はんぶんこ（指定管理）]

高岡屈指の商家であった旧室崎家住宅（市指定）を活用した施設。令和5年度（2023）から株式会社はんぶんこにより、内部の公開だけでなく伝統建築に関する知識や伝統工芸の技術を学ぶワークショップなどが開催されている。

サ 高岡市伏木気象資料館 [運営：伏木観光推進センター（指定管理）]

国内最初の私立測候所に起源をもつ旧伏木測候所（国登録）であり、伏木における気象観測の歴史や気象観測機器などを展示している。

シ 高岡市デザイン・工芸センター [運営：高岡市]

伝統産業に受け継がれてきた技術の保存・継承と発展を図るとともに新たなクラフト産業創出を目指し、新商品開発やデザイン開発の支援を行っている。また、伝統工芸産業人材養成スクール事業や伝統工芸産業技術者の表彰、伝統工芸品展の開催などを行っている。

ス 高岡地域地場産業センター [運営：（公財）高岡地域地場産業センター]

富山県西部地域の地場産業の振興と地域の発展に寄与するとともに、広く県内外に地域の産業を紹介している。鋳物と漆器加飾の体験教室のほか、高岡地域文化財等修理協会の活動に対する支援を行っている。